

■10月24日

JNTO、9月、訪日外国人数、前年同月比31.7%増、中国－1年ぶりにプラス

日本政府観光局が23日発表した9月の訪日外国人数(推計値)は、前年同月比31.7%増の86万7100人だった。8か月連続で前年を上回り、9月として過去最多を更新した。1-9月累計は前年同期比22.4%増の773万1400人。10～12月が累計で11%増で、年間1000万人の訪日客という政府目標の達成が視野に入ってきた。

尖閣諸島国有化以降、関係悪化の影響が出ていた中国は、28.5%増の15万6300人と1年ぶりにプラスに転じ、9月では最多となった。円安を背景に台湾や東南アジアも大幅に増えた。

中国以外の国・地域別では、台湾が75.1%増の20万6800人、香港も52.4%増の5万5400人。7月に短期ビザが免除されたタイ(56.1%増)とマレーシア(23.9%増)も好調だった。

(時事ドットコム)10/23

http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013102300533 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013102300533)

(JNTOプレスリリース)10/23

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/pdf/131023_monthly.pdf (->

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/pdf/131023_monthly.pdf)

*出典: JNTO

2013年9月 訪日外客数 (JNTO推計値)

Visitor Arrivals for Sep. 2013 (Preliminary figures by JNTO)

国・地域	Country/Area	総数 Total			総数 Total		
		2012年 9月	2013年 9月	伸率(%)	2012年 1月～9月	2013年 1月～9月	伸率(%)
総数	Grand Total	658,239	867,100	31.7	6,314,030	7,731,400	22.4
韓国	South Korea	145,742	164,500	12.9	1,491,118	1,944,200	30.4
中国	China	121,673	156,300	28.5	1,251,058	994,900	-20.5
台湾	Taiwan	118,115	206,800	75.1	1,096,275	1,669,900	52.3
香港	Hong Kong	36,355	55,400	52.4	366,981	548,600	49.5
タイ	Thailand	18,775	29,300	56.1	179,129	285,200	59.2
シンガポール	Singapore	8,017	11,600	44.7	89,695	115,000	28.2
マレーシア	Malaysia	9,442	11,700	23.9	86,457	104,200	20.5
インドネシア	Indonesia	7,996	8,700	8.8	71,725	98,200	36.9
フィリピン	Philippines	6,714	7,900	17.7	62,573	77,700	24.2
ベトナム	Vietnam	5,610	7,400	31.9	40,660	60,900	49.8
インド	India	6,335	6,400	1.0	51,368	57,300	11.5
豪州	Australia	18,920	21,500	13.6	149,126	180,100	20.8
米国	U.S.A.	53,692	61,300	14.2	533,989	592,100	10.9
カナダ	Canada	9,859	11,300	14.6	99,609	111,200	11.6
英国	United Kingdom	13,742	15,800	15.0	126,615	141,200	11.5
フランス	France	10,863	11,900	9.5	94,911	116,000	22.2
ドイツ	Germany	10,027	11,800	17.7	77,731	88,500	13.9
ロシア	Russia	4,876	5,100	4.6	35,053	44,900	28.1
その他	Others	51,486	62,400	21.2	409,957	501,300	22.3

関空、上半期、国際線、外国人旅客、前年同期比27%増、LCC効果

新関西国際空港会社が23日発表した関西国際空港の2013年度上半期(4～9月)の運営概況(速報値)によると、国際線の外国人旅客数は前年同期比27%増の245万222人で、上半期としては1994年の開港以来最多。格安航空会社LCCの増便と円安で、台湾や香港、東南アジアからの旅客が堅調な伸びを見せた。一方、国際線日本人旅客数は10%減の333万5186人と4年ぶりに落ち込んだ。

国内線を合わせた全体の旅客数は、6%増の897万4771人。航空機の発着回数は2%増の6万5647回、2年連続で前年を上回った。

(毎日新聞)10/23

<http://mainichi.jp/select/news/20131024k0000m020040000c.html> (->

<http://mainichi.jp/select/news/20131024k0000m020040000c.html>)

(新関空(株)プレスリリース)10/23

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1831/gaikyou9gatu.pdf> (-> <http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1831/gaikyou9gatu.pdf>)

*出典:新関空(株)

【関西国際空港】

◆ 1日平均				◆ 月 合 計		◆ 上半期 合 計	
区 分	2012年9月 1日平均 (9/1～30)	2013年8月 1日平均 (8/1～31) [速報値]	2013年9月 1日平均(前年比) (9/1～30) [速報値]	区 分	2013年9月 月 合 計 (前年比) (9/1～30) [速報値]	2013年4月～9月 上半期合計(前年比) (4/1～9/30) [速報値]	
乗入便数(便)	182.8	187.5	185.0 (101)	発着回数(回)	11,101 (101)	65,647 (102)	
国 際 線	120.4	120.3	118.3 (98)	国 際 線	7,098 (98)	42,364 (98)	
旅客便	99.0	100.4	98.0 (99)	旅客便	5,882 (99)	35,062 (99)	
貨物便	20.0	18.5	18.2 (91)	貨物便	1,094 (91)	6,767 (94)	
その他	1.5	1.3	2.0 (137)	その他	122 (137)	535 (94)	
国 内 線	62.4	67.1	66.7 (107)	国 内 線	4,003 (107)	23,283 (110)	
旅客便	58.4	63.3	61.8 (106)	旅客便	3,706 (106)	21,524 (112)	
貨物便	1.5	1.5	1.9 (128)	貨物便	111 (128)	570 (107)	
その他	2.6	2.3	3.1 (120)	その他	186 (120)	1,189 (89)	
航空旅客数(千人)	47.9	56.7	52.0 (109)	航空旅客数(人)	1,559,648 (109)	8,974,771 (106)	
国 際 線	31.8	37.3	33.5 (105)	国 際 線	1,005,288 (105)	5,952,566 (101)	
日本人旅客	21.5	22.8	20.4 (95)	日本人旅客	612,410 (95)	3,335,186 (90)	
外国人旅客	9.1	13.4	12.2 (134)	外国人旅客	★366,600 (134)	★2,450,222 (127)	
通過旅客	1.2	1.1	0.9 (72)	通過旅客	26,278 (72)	167,158 (75)	
国 内 線	16.1	19.4	18.5 (115)	国 内 線	554,360 (115)	3,022,205 (116)	

関空、2013年冬スケジュール、国際線便数、前年比35便増、LCC増便で全体の19.6%

新関西国際空港は23日、関西国際空港の2013年冬スケジュール(2013年10月27日～2014年3月29日)を発表した。それによると、国際線便数は、ピークとなる見込みの12月に1週間あたり前年比35便増の716便となり、過去最高を更新。夏スケジュールを含めても2012年夏の716便が最高で、これに並ぶことになる。

香港エクスプレスの就航など、LCCによるネットワーク拡充が好調の要因で、期間中はLCC9社が10都市に就航する。LCCの便数と全体に占める割合では、2008年冬は10便で1.6%のみであったが、2013年冬は140便で19.6%。国内線を含めると、関空を発着する旅客機のうちほぼ3割がLCCとなる。

(トラベルビジョン)10/23

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59308> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59308>)

(新関空(株)プレスリリース)10/23

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1832/2013winterschedule.pdf> (-><http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1832/2013winterschedule.pdf>)

(日刊航空)10/24

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

*出典:新関空(株)

●旅客便
関空から世界へ、これからはお客様にとって便利で使いやすい国際線ネットワークを目指してまいります。

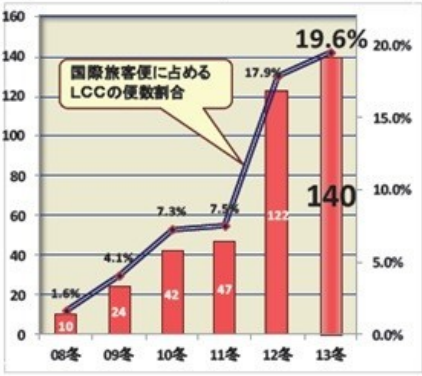
航空会社	路線	便／週	増便数／週	就航時期	備考
CHINA AIRLINES チャイエアライン	台北	17→24	7	10月27日から	関西空港から台北へ夜の出発便が毎日加わることとなり、観光およびビジネスの旅がますます便利になります。
peach ピーチ・アビエーション	香港	7→14	7	11月1日から	ピーチ香港線が、午前便を増便！香港へのアクセスがますます便利になり、旅行プランの幅も広がります。
Garuda Indonesia ガルダ・インドネシア航空	ジャカルタ	0→4	4	11月8日から	関西とジャカルタを結ぶ往復ノンストップ便が約15年ぶりに就航。
PORHONGKONG EXPRESS 香港エクスプレス航空	香港	0→7	7	11月21日から	香港エクスプレス航空がこのLCCとして就航することで、関西空港の国際線LCC就航会社数は合計9社となり、日本最多のLCCネットワークがさらに拡充されます。
air asia エアアジア	クアラルンプール	4→7	3	11月26日から	これまで非運航日であった火・木・日曜日にフライトが追加され、デイリー運航となります。※曜日によって発着時刻は異なります。
Cebu Pacific Air セブ・パシフィック航空	マニラ	3→7	4	12月19日から	月・水・金・土曜日も運航。フィリピンを代表するLCCがさらに身近に、便利になります。
THAI タイ国際航空	バンコク	大型化		12月2日から	総2階建ての世界最大の旅客機、エアバスA380型機が、初めて関西空港に定期就航します。

関西国際空港におけるLCCの概況及び方面別便数

◇関空におけるLCC内訳：9社 10都市(2013 年冬期スケジュール)

航空会社	路線	便数／週
ピーチ・アビエーション	ソウル（仁川）	21
	台北	14
	香港	14
	釜山	7
チェジュ航空	ソウル（仁川）	7
	ソウル（金浦）	7
エアバス	釜山	14
イースター航空	ソウル（仁川）	10
香港エクスプレス航空	香港	7
セブ・パシフィック航空	マニラ	7
エアアジア	クアラルンプール	7
ジェットスター・アジア航空	シンガポール（台北経由）	14
	シンガポール（マニラ経由）	4
ジェットスター航空	ケアンズ	2
	ゴールドコースト	3
	シドニー（ケアンズ経由）	2
計		140

◇関空におけるLCC便数の推移



ジェットスタ・J、エアアジア・J（LCC）、国交省に改善計画報告

必要な定期検査の一部を行わなかったとして、国交省から厳重注意を受けた格安航空会社（LCC）のジェットスター・ジャパンとエアアジア・ジャパンは23日、社外から技術者を招くなど管理体制の強化を柱とする改善計画をまとめ、同省に報告した。

ジェットスターは株主の日本航空グループからの5人の出向者で整備の手順を確認する技術部門を強化。エアアジアも技術管理や部品の担当者の複数の部署が手順をチェックする会議を新設し、再発防止を図る。

(時事ドットコム) 10/23
http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013102300897 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013102300897)
(日経) 10/23
http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG23047_T21C13A0CR8000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG23047_T21C13A0CR8000/)
(日刊航空) 10/24
<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

ハワイアン航空、羽田—コナ線、米国運輸省に発着枠申請、アメリカン航空撤退枠

ハワイアン航空は24日、米国運輸省（DOT）に羽田—コナ線の運航許可を申請する予定だ。
アメリカン航空が12月で羽田—ニューヨーク線を運休することで空く発着枠の獲得をめざす。使用機材はエアバスA330型機（座席数294席）。

アメリカン航空のニューヨーク線運休後の発着枠に対しては、すでにユナイテッド航空がサンフランシスコ線を申請済している。

(トラベルビジョン) 10/23

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59310> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59310>)

中華航空、高雄－熊本チャーター便、1か月延長、台湾での予約好調

中華航空は、8月23日から開始した高雄－熊本連続チャーター便を、10月30日～12月1日まで約1カ月間延長することが22日、分かった。約1カ月の延長で8往復16便程度を追加し、700人前後の訪日を見込む。

当初は、熊本と海外を結ぶチャーターとして過去最大規模の17往復34便を運航する計画だった。中華航空は、台湾の旅行社6社が現地で売り出した4泊5日のツアー販売が好調でほぼ満席が続く旅客需要がさらに見込めると判断した。

高雄からのチャーター便は、熊本県が5月に初めて出展した「2013高雄国際旅展」で旅行各社との協議が本格化、連続チャーターが実現した。9月には蒲島知事と幸山政史熊本市長が訪台し、高雄市と交流促進の覚書に調印している。

(くまにちコム) 10/23

<http://kumanichi.com/news/local/main/20131023002.shtml> (-> <http://kumanichi.com/news/local/main/20131023002.shtml>)

中国南方航空、福岡－瀋陽線、12月21日より運航再開

中国南方航空は、昨年10月から運休をしていた福岡－瀋陽線を、12月21日から運航再開をする。同社によると、需要回復の兆しがあるため火曜、土曜日の週2便で運航再開を決定したという。

使用機材はエアバスA319型機(ビジネスクラス8席、エコノミークラス113席の計121席)。

なお、同社は、同時期に運休していた福岡－広州線も10月28日から週3便で運航開始を発表している。

(トラベルビジョン) 10/23

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59293> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59293>)

エアアジア・ゼスト(LCC)、マニラ－ミリ線運航就航

マレーシアの格安航空会社(LCC)エアアジア傘下のエアアジア・フィリピンが49%を出資するエアアジア・ゼスト(旧ゼスト・エア)が、12月7日に週4便でマニラとマレーシアのミリを結ぶ便の運航を開始する。

NNA ASIAによると、エアアジア・ゼストは12月1日からマニラ－コタキナバル路線で週4便から毎日1便に増便する。さらに、来月15日にセブとプエルトプリンセサ、ダバオ、カガヤンデオロを結ぶ路線を、12月1日にセブ－クアラルンプール路線をそれぞれ開設する予定。路線網の拡充に力を入れている。

同社は現在、航空機を13機保有。国内9都市、海外は上海など4都市に就航している。

(NNA ASIA) 10/23

<http://nna.jp/free/news/20131023php010A.html> (-> <http://nna.jp/free/news/20131023php010A.html>)

ボーイング社、北東アジア地域、今後20年間見通し、新造機需要1360機

(ロイターによると)

米ボーイングは23日、北東アジア地域(日本、韓国、台湾)における今後20年間の新造航空機需要が1360機になるとの見通しを発表した。

同社は、北東アジアで今後20年間に航空機乗客数が年率3.1%ずつ増加すると予測。航空会社が保有する機材も増えるとみている。

北東アジアで使用する民間航空機は2012年に920機だったが、同社はこれが2032年までに1530機に拡大すると予想

している。既存機は今後20年間で750機が退役する見通しのため、新たに1360機を製造する必要があるという。

ボーイングは今年6月、2032年に世界で使用される民間航空機が4万1240機になるとの見通しを発表。全世界の民間航空機が今後20年間で2倍になると予想している。

(ロイター) 10/23

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE99M05T20131023> (->
<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE99M05T20131023>)

スワンナプーン空港、2013年度旅客数、前年度比2.8%減

タイのスワンナプーム空港の2013会計年度(2012年10月—2013年9月)の旅客数は前年度比2.8%減の5090.1万人だった。

2012年10月からエアアジアがバンコクの拠点をスワンナプーム空港からドンムアン空港(旧バンコク空港))に移転したため、国内線が35.6%減の880.7万人に減った。また、国際線は8.8%増の4209.4万人だった。

(newsclip.be) 10/23

<http://www.newsclip.be/article/2013/10/23/19486.html> (-> <http://www.newsclip.be/article/2013/10/23/19486.html>)

フィリピン、クラーク空港、LCC専用ターミナル建設計画

フィリピンは、整備を進めるクラーク国際空港で、LCC線用ターミナルの建設が本格的に始動する。マニラ首都圏にあるニノイ・アキノ国際空港の旅客受容能力が限界に達しつつあるため、クラーク国際空港の拡張を進めると同時にLCC専用ターミナルを設置し、新たな需要の取り込みを狙う。

産経bizによると、クラーク国際空港公社のルシアノ総裁によると、LCC専用ターミナルの建設は来年第2四半期(4~6月期)に着工し、2年後の16年に完成予定という。総工費72億ペソ(約164億円)で、年間に最大1500万人の利用が可能。すでにフランスのパリ空港財団と設計などに関するコンサルティング契約に合意していることも明らかにした。クラーク国際空港の昨年の年間旅客数は前年比71%増の131万人で、国内の空港で最も旅客数が増えた。今年は同53%増の200万人を未婚でいる。

アキノ空港に次ぐ国際空港とするため拡張を進め、10年に完了した第1期拡張工事では航空機と空港ターミナルを結ぶボーディングブリッジなどが設置された。

今年初めに着工した第2期拡張工事は、総工費3億6000万ペソ。搭乗カウンターを現在の14カ所から34カ所に増やし、出発・到着エリアも拡張するほか、搭乗者の手荷物受け取り用ベルトコンベヤーなども整備する。計画当初は14年6月に工事を終える予定だったが、半年早く年内に完了する見込みだ。

(産経biz) 10/24

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/131024/mcb1310240501007-n2.htm> (->
<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/131024/mcb1310240501007-n2.htm>)

ドイツ、パイロット失業率、国の失業率の2倍

(bloombergによると)

クリストファー・シエムさん(24)は、7万ユーロ(約940万円)を支払ってパイロットになるための訓練を受けている。ところが、パイロットの失業率はドイツの平均の2倍に達している。(→)

ドイツの航空業界では航空機数が減らされているため、コックピットでの勤務を夢見るシエムさんのようなパイロット志望の人々は不利な立場に立たされている。約5500人のパイロットを擁するルフトハンザ航空は航空機数を400機に制限し、人員3500人を削減する予定。エア・ベルリンも航空機数を向こう2年間で27%減らす方針で、搭乗員も削減している。

「すぐにコックピットで働けるとは思えない」。主にフランクフルトで2年間の訓練を受けているシエムさんはそう語る。毎

朝自転車で行きながら上空へと飛び立つ航空機を見ていると、授業料の元を取らなければならないと思う。両親も一部を負担してくれている。

かつて国を代表していた航空大手が路線を減らし、燃料コストの高騰と成長鈍化で小規模航空会社の経営が圧迫される中、欧州の大半の地域でパイロットが余剰となっている。ルフトハンザは、パイロットの供給が需要を上回っているため、社内の航空学校の訓練の一部を停止した。パイロットの労働組合の推計によると、ドイツでは資格を持った航空機搭乗員の失業率が過去最高の14%に上っている。

欧州最大の経済国であるドイツの経済成長率は今年0.3%、来年は1.5%と予想されており、世界的リセッション(景気後退)からの回復は続いている。しかし、ルフトハンザは他の航空会社同様、欧州の不採算路線の削減を進めている。

(bloomberg) 10/24

<http://www.bloomberg.co.jp/bb/newsarchive/MV3WL46JIJUY01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/bb/newsarchive/MV3WL46JIJUY01.html>)

全日空、9月、旅客輸送実績、国際線搭乗率75.4%、中国路線復調

全日空は23日、2013年9月のANAグループ旅客輸送実績を明らかにした。これによると、国際線旅客数は54万7,548人で同4.2%増加、搭乗率は75.4%と前年比3.1ポイント低下した。

中国線は前年同期比18%増加、尖閣問題で中国線需要が激減した昨年9月実績以来1年1ヵ月ぶりに前年実績を上回った。訪日。北米線乗継の需要は回復を見せるものの、日本初需要は通常の6割減と落ち込んだ状態が続いている。

一方、国内線旅客数は月間355万7,301人、前年比4.3%増加した。利用率は65.8%で、前年同月よりも0.7ポイント下落した。遷宮で賑わう出雲大社によって、米子線などが好調。

(日刊航空) 10/24

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)